

## 会 議 録

### 1 会議名

令和 6 年度 第 6 回新道区地域協議会

### 2 議題（公開・非公開の別）

#### (1) 自主的な審議（公開）

- ・自主的な審議事項について

#### (2) 報告事項（公開）

- ・地域独自の予算事業の一覧について

### 3 開催日時

令和 7 年 2 月 25 日（火）午後 6 時 30 分から午後 7 時 48 分まで

### 4 開催場所

上越市市民プラザ 第一会議室

### 5 傍聴人の数

1 人

### 6 非公開の理由

なし

### 7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名

- ・委 員：池亀副会長、草間委員、佐藤委員、杉田委員、千町委員、田木委員、塚田委員、南保委員、船崎会長、山本委員、横田委員、横山副会長、渡邊委員  
(欠席 1 名)

- ・事務局：中部まちづくりセンター 小林所長、井守副所長、渡邊係長、鈴木主事

### 8 発言の内容（要旨）

#### 【井守副所長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

#### 【船崎会長】

- ・会議の開会を宣言

#### 【井守副所長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 1 項の規定により、会長が議長を務め

ることを報告

【船崎会長】

- ・会議録の確認：千町委員に依頼

次第２ 議題「（１）自主的な審議」の「自主的審議事項について」に入る。事務局の説明を求める。

【渡邊係長】

○審議の進め方の確認（資料No.1 に基づき説明）

これまで、委員研修で「地域を知る」として、新道区の歴史を学んだ。この他、委員として必要だと思う新道区に関する知識等について、「知りたい事、知ってほしい事」を用紙に記載していただいたが、皆さんから聴取した「知りたい事、知ってほしい事」を分野に分けて整理すると、資料No.1 のとおりとなる。ここまで歴史中心の研修を行ってきたためか、歴史・文化に関する意見が主となっていた。また、「この先の詳細スケジュールを知りたい」という意見もあった。この先は、何かテーマがあった方がより話しやすいと考え、今回からは分野を絞り、資料No.2 に基づき、新道区の「強み（良いところ）」、「弱み（苦手としているところ）」について意見を出し合いながら、「謎（わからないところ）」については今後の研修でそれを補うことにし、「強み・弱み」の整理をしながら、地域協議会の役割の一つである自主的な審議、課題解決策などを協議していくことを提案する。

○今後のスケジュール（自主的審議の進め方）

以前示したスケジュールを更新すると、参考配布した「自主的審議の進め方」のとおりとなる。ただし、地域協議会は、学びの機会を事務局から提供する場ではなく、地域の課題の解決策や特長を伸ばすことについて皆さんで考えていただく場であり、今はそのために必要な知識を得る時間であることを、今一度ご理解いただきたい。故に、皆さんが、どんなことが気になっているか、どんな意見が出されるか、どのような知識を求めているかによって、これからの進捗は変わってくる。

なお、ここからは自主的な審議であるため、これまでの「研修」と扱いが異なり、皆さんの発言は会議録として公開されることをご了承いただきたい。

【船崎会長】

ただ今の説明について、質問を求める。

（発言無し）

これまでは「研修」であったが、この先は「自主的審議」を行うこととし、会議は公開となる。研修は今後にも必要に応じて行う。

それでは、本日の審議の進行について、事務局へ説明と発表までの進行を依頼する。

**【渡邊係長】**

本日は意見の出しやすい分野である歴史・文化について、「強み（良いところ）」もしくは「弱い（苦手としているところ）」について、カードに記入、発表していただく。

**【塚田委員】**

新道地区では富岡の若宮八幡宮の夏祭りがあり、その神輿巡行は素晴らしいと思う。

**【南保委員】**

新田開発の成功例として、南田屋新田、北田屋新田、中田新田とある。高速道路、インターチェンジ側の道路のアクセスがよいのと、歴史と文化があってよい。弱みは、大雨が降ると、内水氾濫が発生することがある。特に、関川沿いでは南田屋が一番低いので、関川に排水されないと最後は南田屋で内水氾濫が起こる。

**【山本委員】**

私は歴史の研修で、新道区が昔から発達している地域であることと、富岡線が重要な道路になり、その周囲に住宅が建ち、発展してきたことを知った。さらに、そこから団地や商業施設など、発展してきたことがこの地の強みと考えた。

**【横田委員】**

歴史を学び、稲田から富岡、直江津に通じる輸送路、それも産業に関わっていることが非常に強みだったのだろう。今はバイパス、インターチェンジに代ったが、主要な輸送路のある地域であることを再認識しながら、これからどういかしてしていくのが、一つのテーマになればいいと思う。

**【渡邊委員】**

新道地域は、大道用水と中江用水とで田んぼが開かれて発展し、農業を中心に栄えてきた。今後の食料不足が懸念されるが、農業を盛り上げていけば、それに備えることができ非常に良いと考える。

**【横山副会長】**

新道区の歴史を振り返ると、農業と商業が融合したこれからの産業発展の可能性を大いに秘めた地区であることを強く感じた。

**【船崎会長】**

新道地区では、歴史的建造物がほとんど保存されていない。マップにもいろいろ記載してあるが、そこをしっかりとやっていない。私が今一番心配なのは、稲田地区の雁木通りの保存について。高田の市街地に雁木があるのが分かるが、稲田は高田城から離れている。そこにどうして雁木ができたのか、それも含めて雁木通りの保存を強みとした。

#### 【池亀副会長】

私が稲田に越してきた頃は子供が小学生だったので、子供会の役員として稲田の祇園祭に灯籠を作成するなど、にぎやかだった。以前から見ると、祭りが小さくなったという話は聞いている。特に新型コロナウイルス感染症の関係で、祭りが見えなくなってきた。祇園祭の衰退を非常に寂しく感じる。

#### 【草間委員】

新道区はすごく歴史がある土地柄だが、知られていないことが多いと感じた。高田城址等のおかげで周囲が発展してきたが、その辺の流れが知られていない。

#### 【佐藤委員】

私は他区から移住してきた。関心を持ったのは、高田城築城に関わった御飯屋（おかりや）に関する話があり、伊達正宗他 13 大名が、1614 年に福島城を廃して高田城築城に着手した。しかし、松平忠輝は 1615 年に改易されて、五郎八姫（いろはひめ）とは翌年に離婚しているという歴史があることから、これは形にはないかもしれないが、面白いと思った。

#### 【杉田委員】

稲田諏訪神社、鴨島諏訪神社、そしてケヤキをいいと思っている。稲田諏訪神社の中に稲荷神社があり、他にも 3 つ神社がある。

#### 【千町委員】

新道地区の歴史・文化について、冊子「新道区の歩み」から学んでいる。新道地区の一番の強みとして、基幹病院が 2 つあることを挙げたが、歴史・文化となると、高田城下における稲田橋の重要性ではないか。

#### 【田木委員】

私は稲田橋の西側の出身。新道区の強み、好きで自慢できることは、祇園祭での神輿の川下り。向こうから見ていて羨ましかった。これは自慢できると思う。

#### 【渡邊係長】

次に、新道区の産業（農業・工業・商業）について、同様に実施する。全員の発表後

に意見交換を行う。

【田木委員】

農業に関して、新道区には中央農業研究センターがあり、この地域は農業をする環境に適していると考え、強みになる。

【千町委員】

稲田の雁木、新道地区の雁木通りの商店街、稲田橋からの言わば城下町に、重きを置いてはどうか。

【杉田委員】

篠宮麩店の麩、井上冷菓のアイスとたい焼き。そして、中央農業研究センターがあることが強み。

【佐藤委員】

大規模商業施設と基幹病院が南北にあり、住むには良いところ。1831年に稲田の大火があったときに、保阪貞吉が施米（ほどこしまい）を百一俵半援助したことから、旧保阪邸は海運で稲田橋のたもとに、1800年くらいのときに、三和の大東から出てきたという話がある。運輸業として米や穀物を運んで、財を成したという話があり、それで今のタテマチが発展してきて、稲田橋があり、そういう名残があるのかと思う。

【草間委員】

昔から用水が発達していて、稲作が強み。また城下町であったため、何か他の産業もあるかと思う。

【池亀副会長】

新道地区の農業で自慢できる強みは、中々村新田のアスパラ菜。現在最盛期なのでスーパーなどで売られているが、あれは中々村新田の農家の皆さんが後作として初めてアスパラ菜を作り、売るための体制を整えたことで上越に広まった。ここが起点になったと伺った。上越は雪が深く、排水が悪い重粘土なので、園芸作物はなかなか定着しない。唯一上越のこの地域で定着したのは、農家の皆さんのおかげなので紹介したいと思った。

【船崎会長】

江戸時代は農業主体で、今の中央農業研究センターは、戦時中に私の祖父が関与して誘致した。その当時は農業主体だったので良かった。今の新道地区の産業構造は南部と北部に分かれ、中部が取り残されている状態。北部は商業圏で、南部は医療、老人介護施設などが多い。その辺をどうにかしないといけない。

【横山副会長】

新道区の産業は農業と商業があり、その融合と発展を図る上で、南北に長い新道地区の結びつきをいかにして作り出すかが大きな課題だ。

【渡邊委員】

先ほどから雁木の話が出ているが、稲田のタテマチは、どんどん店が減るばかり。最近、個人事業主というか、趣味が高じて商売をする人が増えてきた。いろいろな商売のやり方があると思った。そういう人たちが稲田のタテマチに出てきてくれるとありがたい。

【横田委員】

農業は昔も今もかなり主要な産業。大規模、小規模あるが、これをどういかしていくか。一方、郊外型の商業施設ができています。生活上は大事でも、こっちへ来れば田んぼの耕作面積が減る。どの辺での線引きが良いのか。地区全体を考えると重要な問題ではないか。また、後継者の確保面も、より高齢化が進んだ時にどうしていくのかが課題。

【山本委員】

やはり一番は稲作。新道地区は住宅の裏に田んぼが広がっているので、米どころ新潟の一端を担っているかと思う。新道地区には商業施設がいくつかあり、農業あり、商業あり、S & B ガーリックの工場もあり、生活が全て完結することが強み。

【南保委員】

強みで、昔の北陸農地試験場（中央農業研究センター）ができたことと、何年前、新道区の中江用水をパイプライン化した。通常、頸城や津有では用水をポンプアップしているが、県内で唯一、傾斜を利用し自然流水でやっている、新道地区の唯一の用水で、これは自慢できるところ。土地改良区が検討して行った。商業施設は、イオンとウイングマーケットがある。

【塚田委員】

私は、農事組合法人ファーム富岡でお手伝いをしている。60 歳以上の人がほとんど。やはり若い担い手が欲しいと話合っている。そこが弱み。

【渡邊係長】

今までの発言について、何か質問はあるか。

【渡邊委員】

船崎会長に、雁木についての考えを伺いたい。

【船崎会長】

雁木をどうしたらいいか、どういうふうに保存するか、特に今、タテマチは雁木という感じではなくなった。特に昔の下稲田と六軒町、六軒町の向こうの旧小柳医院までつなげるような形で保存できたらいい。空き家もあるので、どういうふうに保存するか。東本町などにも雁木があるので、行政も考えているとは思いますが、その辺をどうにかしたい。

【渡邊係長】

他に質問はあるか。

(発言無し)

資料No.2「謎」については、今後、研修の中で解決できればと考える。今日の意見をまとめて次回に示す。次回は「健康・福祉」から進めていく。

発表が終了したので、ここからは会長から議事を進めていただきたい。

【船崎会長】

以上で、次第2議題「(1) 自主的な審議」の「自主的審議事項について」を終了する。

次第2議題「(2) 報告事項」の「地域独自の予算事業の一覧について」に入る。事務局の説明を求める。

【渡邊係長】

- ・令和7年度の市の当初予算案を公表したので、上越市地域独自の予算事業実施要綱に基づき、地域協議会に地域独自の予算事業の内容を情報提供するもの。
- ・資料No.3に基づき説明
- ・内容は、市議会3月定例会での議決をもって成立することから、あくまで予算案であることをご承知おきいただきたい。
- ・なお、地域協議会委員が事業の審査等をするものでなく、今後の協議にあたり、地域でどのような団体が、どのような事業を実施しているかを把握し、参考にさせていただきたいことから情報提供する。

【船崎会長】

ただ今の説明について、質問を求める。

【横田委員】

地域別の予算があるが、このような具体的な予算は、どのような経路で市に上がるのか。地域協議会等々とは関係ないのか。

【渡邊係長】

以前の地域活動支援事業とは異なり、地域協議会で審査せず、市が当該事業費を計上する。中部まちづくりセンターでは、年間を通して提案を受け付けており、既に令和 8 年度事業の相談をいただいている団体もある。センターに直接相談していただき、予算計上できるよう、職員も一緒に考えて進めていく。

【横田委員】

団体に地域協議会委員が入っていても可能か。団体の企画について、市へ予算をいただきたいと率直に相談し、アドバイスをいただき、精査しながら仕上げていくということとでよいか。

【渡邊係長】

委員でも可能。相談があった団体とセンターとで一緒に事業を練り上げていく。

令和 7 年度の新道区の提案は 2 件。新道区が活性化するように、ぜひ地域協議会委員からも新しい団体や既存の団体に、まずは中部まちづくりセンターへ相談してほしいと声掛けをしていただきたい。

【佐藤委員】

令和 7 年度の事業は、令和 6 年 9 月までに事業計画を整理して提出しなければいけない状況だった。

例えば、私は三和区で 2 件取り組んでいるが、2 月 15 日に行われた灯の回廊の事業を実施する前に次の年の計画と予算を立て、提案しなければいけない。さらに 3 割を自己負担、継続事業は 1 割の負担だが、地域活動支援事業は 10 割補助だった。地域の活性化に取り組むのであれば、10 割の支援が必要だと思う。3 割の自己負担がかなり大きい。

また、令和 5 年度の事業では、小学校の閉校記念に熱気球を 2 か所で打ち上げた。1 か所 50 万円なので、事業費 100 万円のうち 30 万円を持ち出した。19 万円の赤字だったが、その年にやらなければならない事業ということで実施した。

私たちが何年も前から事業を計画していたのに、市長が代わることで制度が変わってしまうと困る。そこは行政が、私たち提案する側、地域の団体が活動をしやすいような予算立てをしていただきたい。地域活動支援事業の時は 2 月末に提案してもギリギリ間に合った。地域ごとに事前に予算が配分されていた。

要するに、行政の予算要求と同じ形なので、私たちの準備時間がなくて大変な苦労だ。例えば、概算要求を行政に提出して、中部まちづくりセンターでその地域枠の予算が消

化できるよう、地域の団体と２月までに調整するとか、そういう形でやってもらわないと上手くいかない。事業の提案時期が前倒しになっていて、まだ実施していないのに、次の年のことを考えなくてはならないのでは、新規事業の提案も難しいだろう。

【渡邊係長】

以前の地域活動支援事業と制度を比較して、一長一短ある。市の予算要求に合わせて事業提案してもらうため締め切りが早い。見積書を用意するなど大変なところについては、まちづくりセンターも協力する。制度については皆さんからもアンケートなどで協力いただいている。ご意見をいただければ担当部署に伝える。

活用を考えている人がいれば、気軽に中部まちづくりセンターに相談してほしい。事業実施まで、長いと２年先の話になるが、それも含めて一緒に悩んでいきたいと考える。ぜひ、周囲の団体へ、まずは中部まちづくりセンターへ相談してみてくださいと、皆さんから宣伝していただきたい。

【船崎会長】

他に質問はあるか。

(発言無し)

質問が無いようなので、以上で、次第２議題「（２）報告事項」の「地域独自の予算事業の一覧について」を終了する。

次に、次第３その他「（１）次回開催日程」に入る。事務局の説明を求める。

【井守副所長】

- ・次回の協議会について説明

— 日程調整 —

- ・次回の地域協議会：３月２５日（火）午後６時３０分から  
新道地区公民館 多目的ホール（予定）

【船崎会長】

以上で次第３その他「（１）次回開催日程」を終了する。

次に、次第３その他「（２）その他」に入る。

その他、何かあるか。

(無しの声)

- ・会議の閉会を宣言

９ 問合せ先

総合政策部 地域政策課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-1690

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。